

## 第 2 部 基本構想

## 第1章

# まちづくりの基本姿勢

## 1 将来ビジョン

### 太陽と緑の環境都市 いい



#### 【将来ビジョンに込めた願い】

本町では、自然と調和した「太陽と緑の環境都市 いい」を将来ビジョンとして掲げ、徳島市近郊の恵まれた立地を活かした良好な住環境の整備を図るとともに、「人とのつながり」「地域とのつながり」「町とのつながり」「明日とのつながり」を大切にまちづくりを推進してきました。

これからのまちづくりにおいて、本町で暮らすすべての人が、日々の暮らしの中で幸せや楽しさを実感するためには、住み続けたいまちとして本町に愛着を持っていただくことが重要となります。

少子高齢化が進み、多様なライフスタイルを送る世帯が増えたことで地域のつながりが弱くなっている状況がみられます。時代に即したコミュニティの再構築を図り、住民の誰もがそれぞれの居場所を持てる環境づくりを推進することが大切です。

また、本町が持続可能な発展を遂げ、活気あるまちづくりを推進するために、環境に配慮したまちづくりを推進し、本町が持つ自然の豊かさを次世代に引き継ぐことができるよう、一つひとつ取組を推進していきます。

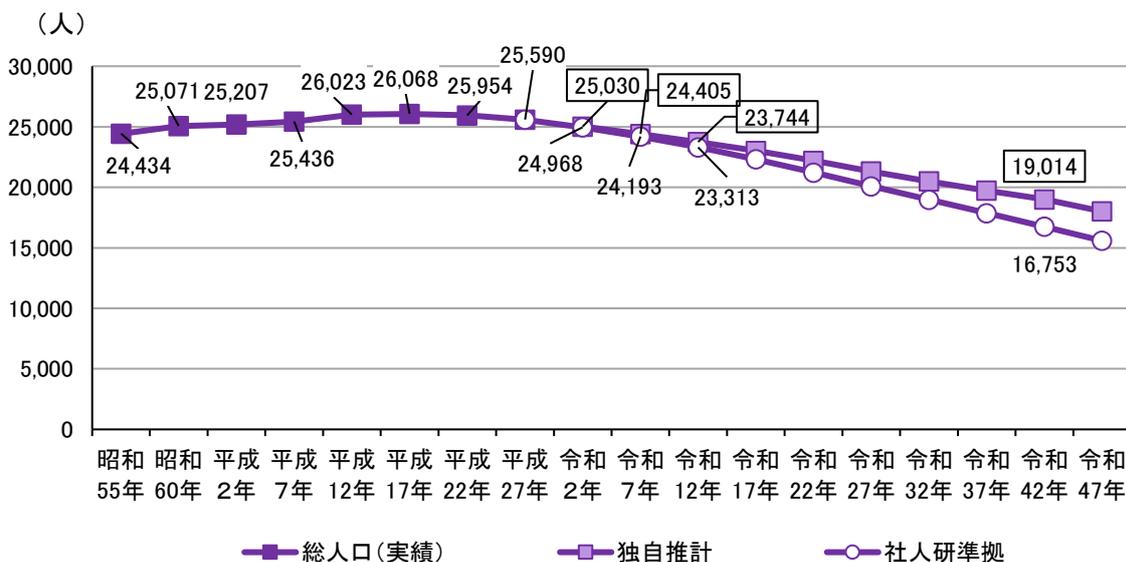
本町が「住みたいまち」「住み続けたいまち」そして「訪れたいまち」となるためには、快適に、かつ、安全に安心して暮らせるまちであることが重要となります。本町が誇る豊かな自然や人のやさしさ等のまちの魅力を最大限に伸ばし、先人より受け継がれた自然や歴史を大切に守り、活かすとともに、ストレスのない快適な生活を営むことができる都市機能の充実を目指します。本町に住んでいる人も訪れた人も、誰もが笑顔になれる、人にやさしいまち、人にやさしくなれるまちであり続けることを願い、未来が明るいまちづくりを推進します。また、前回計画との連続性を考慮し、引き続き「太陽と緑の環境都市 いい」を将来ビジョンとして掲げることとします。

## 2 目標人口

将来人口は、生活基盤の整備や雇用機会の創出、教育機関の提供等の面で、将来のまちの規模を示す指標となります。

令和2年3月に策定した第2期人口ビジョンでは、合計特殊出生率の上昇(2015年1.48から2065年1.73)と転入者数の増加に資する政策を展開することによる社会純増を図り、令和42年(2060年)に19,000~20,000人の人口規模を維持することを目標に掲げています。本計画の終了年度にあたる令和12年度には23,700人程度の人口規模を目指します。

### ■目標人口



資料:国勢調査(実績)、人口ビジョン(推計値)

### ■本町の人口・構成比の推移及び推計(国立社会保障・人口問題研究所準拠)

	実績値								推計値			
	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	令和7年	令和12年	令和42年
総人口	24,434	25,071	25,207	25,436	26,023	26,068	25,954	25,590	24,968	24,193	23,313	16,753
0~14歳	5,383	5,165	4,497	4,001	3,653	3,493	3,416	3,233	2,983	2,796	2,667	2,266
15~64歳	16,204	16,669	16,761	16,734	16,786	16,455	15,826	14,602	13,708	13,190	12,712	9,615
65歳以上	2,847	3,236	3,949	4,701	5,584	6,120	6,705	7,755	8,339	8,419	8,365	7,132
構成比	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	令和7年	令和12年	令和42年
0~14歳	22.0%	20.6%	17.8%	15.7%	14.0%	13.4%	13.2%	12.6%	11.9%	11.5%	11.2%	11.9%
15~64歳	66.3%	66.5%	66.5%	65.8%	64.5%	63.1%	61.0%	57.1%	54.8%	54.0%	53.5%	50.6%
65歳以上	11.7%	12.9%	15.7%	18.5%	21.5%	23.5%	25.8%	30.3%	33.3%	34.5%	35.2%	37.5%

資料:国勢調査(実績)、人口ビジョン(推計値)

## 第2章

# まちづくりの大綱

本計画は、町の最上位計画であり、今後10年間の大きな方向性を示すものとなります。総合戦略は中でも特に人口減少の克服、地方創生を目的としているものであり、「石井町人口ビジョン」との整合性を図り策定された「石井町総合戦略」に掲げている目標を本計画において重点目標と位置付け、人口減少の克服やまちの活力の維持・向上に向けた取組を重点的に推進します。

## 1 重点目標

### 重点目標1 子どもを産み育てやすい環境と移住・定住の促進

#### 主な取組

本町ならではの充実した子育て環境に磨きをかけ、子どもとその家族、地域が輝く取組を推進します。また、本町が全国から選ばれる町であるために、恵まれた自然環境を活かしたまちづくりを推進するとともに、移住希望者や住宅取得希望者の負担軽減を図り、移住・定住を促進します。

1. 子育て支援の充実
2. 教育の充実
3. 移住・定住支援

### 重点目標2 暮らしやすい生活環境の形成

#### 主な取組

住民がいつまでも健康で生活を営むことができ、安全で安心した生活を送ることができるよう、保健・医療・福祉などの各分野の充実を図るとともに、利便性の高い道路環境の整備や地域の持続的発展を目指し、近隣自治体との連携を強化します。

1. 地域基盤の整備
2. 安心・安全の確保
3. 地域コミュニティの形成

### 重点目標3 産業の振興と雇用の場の創出

#### 主な取組

本町の恵まれた地域資源を活用し、付加価値の高い農作物の生産、加工販売を促進するとともに、企業誘致や起業・創業支援を通して新産業の創出を促し、魅力のある“しごとづくり”を推進し、町の活力のさらなる向上に努めます。

1. 新産業の創出
2. 地域産業力の強化
3. 観光・交流産業の振興
4. 人材の確保・育成

## 2 基本目標

### 基本目標1 互いに支え合う、人と地域が輝くまちづくり

少子高齢化が進む中で、本町においても住民同士の間関係の希薄化が進行し、認知症高齢者や一人暮らし高齢者、支援者自身の高齢化など、支援を必要とする人が増加しており、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、住民一人ひとりの「住み続けたい」を実現できるまちづくりを推進します。

子どもは、これからの社会を拓き、未来へのかけ橋となる大切な地域の宝です。本町が持続可能な発展を遂げるためにも、合計特殊出生率の向上や若年層の転入・定住の促進に向けて、若い世代が結婚して子どもを持つといった希望をかなえるための取組を推進するとともに、子育ての場としての魅力を高めます。

また、住民主体となる取組・活動や健康づくり、生きがいづくりを積極的に支援し、医療・介護体制の確保など、住民一人ひとりが健やかに暮らすことができるまちづくりを行うとともに、地域包括ケアの考えに基づく、地域での支え合い、助け合いの仕組みづくりを支援し、すべての住民が共生できる社会の形成に向けたまちを目指します。

#### ①健康的な暮らしの推進

住み慣れた地域で安心して生活をするためには、心身ともに健康であり続けることが重要です。いつまでも健康でいられるよう、健康づくりの推進や保健・医療・福祉との連携の充実を図り、安心して医療を受けることができる環境づくりを推進します。

#### ②高齢者・障がい者福祉の充実

支援が必要な高齢者をはじめ、元気な高齢者、障がいのある方に対しても、生きがいや社会参加の機会を提供し、希望する誰もが活躍できる支え合いの地域づくりを進めます。また、認知症や障がいに対する理解や啓発、支援体制の充実により、自立した生活を送ることができるまちづくりを進めます。

#### ③地域の支え合いの推進

住民一人ひとりが地域に関心を持ち、地域でいきいきと暮らしていくことができる福祉社会の形成を目指し、それぞれの地域にふさわしい福祉の仕組みづくりを進めます。

また、すべてのライフステージにおいて生涯学習を推進することで、郷土に対する愛着と誇りをはぐくむとともに、地域の担い手づくりや地域活動の場の整備などを通して、地域の住民同士がつながり、地域を支える人づくりを推進します。

住民の誰もが笑顔で心豊かに暮らしていくためには、一人ひとりの尊厳と人権が尊重される社会の実現が重要となります。様々な場や機会を利用して、教育や啓発活動を推進し、住民の人権意識の高揚に努めます。

#### ④子育て環境と教育の充実

若い世代が子どもを持ちたいという希望をかなえ、安心して妊娠・出産・子育てができる環境の整備や支援体制の構築に取り組むとともに、子育てを通じたネットワークづくりを推進し、子育て世代が孤立せずに子育てができる環境を整備します。

次世代を担う子どもたちが、生きる力をはぐくみ、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力を養うことができる環境を整備します。また、国際化・情報化社会に対応した人材の育成を図るため、特色ある学校づくりを推進します。



みらいフェスタ



1歳6か月児・3歳児健康診査事業



こどもねっといいい

## 基本目標2 自然と調和した安全・安心な環境都市

本町は豊かな自然環境に恵まれ、災害が比較的少ない地域です。しかし、全国的に発生している異常気象や、近年発生が危惧されている南海トラフ巨大地震など、防災に対して関心が高まっています。住民の生命、身体及び財産を守るため、防災・防犯体制の充実などを図り、誰もが安全に安心して暮らせる地域づくりを推進します。

また、すべての住民が、快適に生活を営むことができるよう、近隣市町間や町内の交通基盤の整備や良好な住環境の維持・整備を図ることが重要です。人と自然が共生していく中で、エシカル消費を推進し、環境にやさしいライフスタイルの浸透や自然環境の保全を図ります。

### ①安全で快適な生活環境の確保

都市機能を維持し、誰もが暮らしやすい安全で快適なまちづくりのための基盤整備に努めます。また、道路・河川等の生活に欠かすことのできない社会基盤の整備、長寿命化を進め、住民の安全・安心、快適な生活環境の確保に取り組みます。

### ②安心した暮らしの実現

住宅ストックの利活用を図り、住みよいまちづくりを推進します。また、質の高い安全・安心な水を安定的に供給する体制の構築を図るとともに、汚水処理等を適切に行うことで、衛生的な生活環境を確保します。

### ③安全・安心のまちづくり

地域消防力の充実強化と火災予防対策の推進に努めるとともに、消防団や防火組織、自主防災組織との連携を強化し、総合的な消防体制を確立します。また、防災・減災や交通安全活動、防犯活動に向けて、住民や地域の自助・共助の取組を支援し、住民と行政が一体となった安全・安心のまちづくりを推進します。

### ④環境に配慮したまちづくり

豊かな自然を保全するため、ごみの減量化やリサイクル率の向上を図り、安定的かつ継続的なごみ処理施設の整備に努め、生活雑排水やし尿の適切処理等、環境に配慮したまちづくりを推進します。

### 基本目標3 住民とともに作る協働のまちづくり

働きがいや産業と技術革新の基盤づくりに向けて、企業誘致や起業促進などの雇用の創出や農業・商工業をはじめとする産業の継承、活性化に取り組むとともに、自然や歴史などを活かした観光振興を推進します。

また、厳しい財政状況が予測される中で、人口減少や少子高齢化の進行、住民ニーズの多様化など、様々な行政課題に的確に対応するためには、社会経済情勢の変化に柔軟に応じて、経営的な視点に立った行政運営が重要となります。

限られた人員や予算の中で、効率的かつ効果的な行政運営が実現できるよう、情報通信技術等の活用を図るとともに、職員能力の向上をはじめとする人材の育成を推進します。また、公共施設の長寿命化や総量適正化などを計画的に推進し、長期的な視点に立った持続可能な行政運営を推進します。

#### ①地域産業の活力増進

主幹産業である農業の推進にあたって、優良農地の保全と農業の生産性を高めるための基盤整備を推進するとともに、農業の担い手づくりや付加価値の創出を図ります。

また、商店関係者の意識改革や店舗・経営の改善、大型店との差別化など、商工業に携わる方々の自助努力を促すとともに町の施策を商工業者・団体と行政とが協働して進め、官民一体となって商工業の活性化を図ります。

#### ②協働のまちづくりの推進

本町が抱える課題や情報を行政と民間で共有し、地域の需要を正確に把握して課題解決に向けた取組が重要となります。住民と行政、事業者等がそれぞれの役割を明確にしながら、主体的に取り組める体制を整えることで、協働のまちづくりを推進します。

#### ③健全な行政運営

多様な住民ニーズに柔軟かつ的確に対応する実効力のある行政執行ができるよう、各役職段階別に研修や専門研修を織り交ぜ、総合的な研修体系を構築し、個々の知識や能力を最大限発揮することができる人材の育成を図ります。

#### ④広域行政の推進

本町は徳島市のベッドタウンとして発展し、自然豊かな土地と都市部へのアクセスの良さを活かしたまちづくりを推進してきました。これからのまちづくりを推進するにあたっては、徳島県東部圏域をはじめとする近隣市町村との行政間交流や住民交流、経済交流を深め、広域連携によるスケールメリットを活かした効果的かつ効率的な事業を展開し、持続可能な地域づくりを推進します。

### 3 まちづくり施策の体系

将来ビジョンや重点目標、基本目標を実現するため、まちづくり施策の体系を次に示します。

将来ビジョン

太陽と緑の環境都市  
いしい

